

全國山名氏一族會會報

第 4 号 平成1年12月刊

発行所	全国山名氏一族会	〒667-13 兵庫県美方郡村岡町村岡	山名寺内
発行者	理事長 山名文雄	電話	07969-8-1151
編集者	事務長 吉川広昭	振替	神戸1-54181



左より太田垣理事長、山名晴彦総裁、赤松氏代表 赤松衛氏、縁故寺院 三師

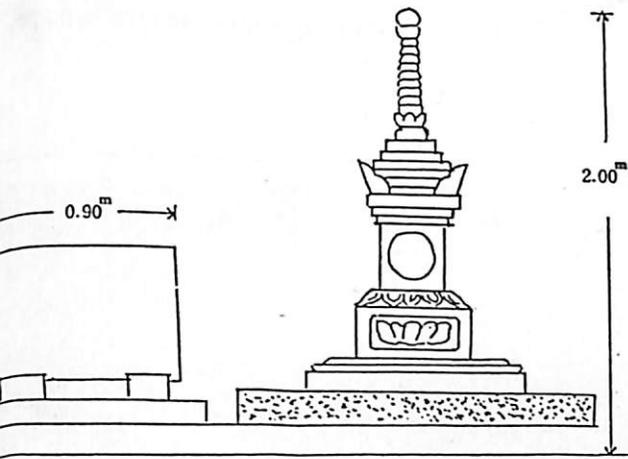
但馬竹田城頭にて

山名、赤松両軍陣歿諸霊 合同慰霊祭奉修

平成一年四月二十二日、
参列者 二百名

第四回全国山名氏一族会総会行事の一つとして山名宗全公築城の但馬竹田城（国史跡指定）天守閣前の広場で、同城に縁故深い赤松氏ご子孫代表の各氏とともに両軍の永年に亘る攻防戦で陣歿された有名無名の諸霊を供養した。

地元の新聞各紙はこの歴史的壮挙を讃えて「五四〇年ぶり平成の手打式」と報じたが『手打式』の是非はさておき、両氏の間では「これを機に、今まで別々に、先祖の研究をやってきたが、これからは提携しあって埋れゆく中世の姿を鮮明にし、偉大な足跡を残した両氏の顕彰につとめたい」という約束がかわされた。



供養塔 (宝篋印塔)



山名氏 両軍陣歿諸靈供養塔建立にむかつて 赤松氏

前記両軍慰霊祭の場での話し合いで

「両氏末裔の赤誠を霊位に被陳し、併せて内外に両氏の鴻業を宣揚するために、恒久的な工作物をつくらう。それには、中世武将の間に例の多い宝篋印塔が適切である」となりました。

以来、地元和田山町（土地所有者）や竹田城下の有志との下話や、赤松氏代表としてご参画いただく方々との交渉等で時間がかかりましたが、

十一月二十六日 山名赤松両氏代表による

建立発起人会

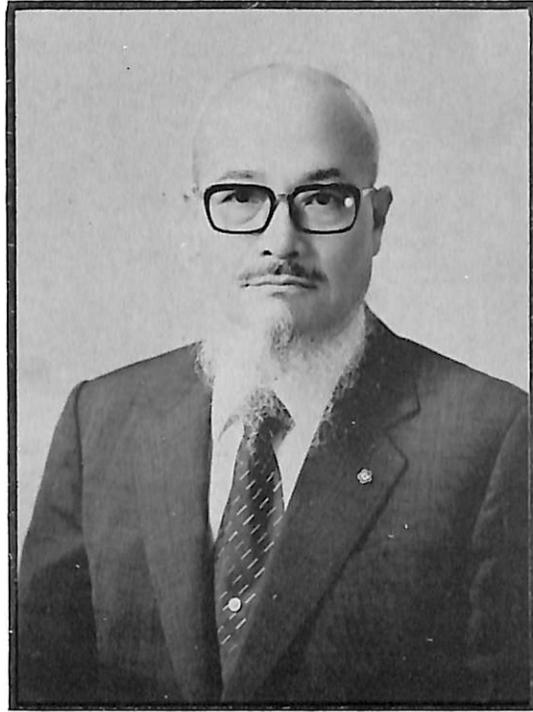
をひらくことができまして、供養塔建立事業が実動をはじめました。

くわしくは次頁の「山名氏顕彰基金計画」および、同封別紙の「……供養塔建立趣意書」「協賛申込書」をご検討ください。



理事長 太田垣泰明氏のご逝去

平成元年十月十一日かねてご療養中の理事長太田垣泰明氏は薬石効なく幽明境を異にされた。世寿六十六才。「放蕩院殿泰明無頼大居士」との法名は曹洞宗貫長畑慧玉猊下親授によるという。
氏は早くより山名氏一族会の結成を提唱され、当会に先だって「和歌山県下山名氏一族会」を組織されるなど当会結成の素地をつくられた。以後は監事・理事長



として、発足後弱体な当会を支えるために物心両面のご援助を寄せられた。

氏の出自は江戸中期、但馬村岡山名氏第七代義徳公に発し、臣籍に入って、太田垣氏を襲い復興された。

中世の太田垣氏は、五代百五十年の間、山名氏より竹田城を委任され南但馬の防衛に当った。氏はその故をもって竹田城両軍供養塔の建立を終生の悲願とされたのである。

今日ようやく供養塔建立の緒についたが、その竣工を見ることなく逝かれた氏に、ことの遷延をおわびするとともに悲願達成の決意を誓約する次第である。

太田垣泰明氏のご遺志として

金五百萬圓也

山名氏顕彰基金設立のために
後嗣太田垣佐登嬢よりご寄進

十一月二十七日、太田垣泰明氏満中陰にあたり、後嗣の令孫佐登嬢より金五百萬圓のご寄進をいただきました。

いうまでもなく、竹田城供養塔の建立や山名氏資料館建設等、一連の山名氏顕彰事業を促進するためのものであります。

そこで、役員一同が慎重協議を重ねました結果、この絶大なご遺志を基礎として、会員それぞれが分に応じた協賛をはかり

山名氏顕彰基金

を設けることとなりました。これも別紙に詳記しておりますので、どうかよろしく意のあるところをおくみとりください。

新理事長「山名文雄氏」ご就任

新しく理事長に就任された山名文雄氏は、美作山名氏流で現在、和歌山県田辺市に事業所、住宅を設けられている。

氏の開発された石材工作用精密機器は世界的に著名であるとか。地元田辺市民の信望を一身に集められた事業家である。

氏はまた、山名氏の歴史に情熱をこめられ、顕彰事業にも深いご抱負を持たれているので、当会の今後に良き指針を与えてくださろう。どうよかるしくとお願い申しあげたい。



第4回 全國山名氏一族會總會 於 但馬大明寺 H I . 4 . 23

第四回全國山名氏一族會總會の記

平成元年四月二十二・三両日

但馬会場 ・ 村岡山名寺

・ 城崎日和山温泉金波楼

・ 竹田城山名赤松両軍慰靈祭

・ 生野大明寺参拝

今回も全国各地から六十氏をこえるご参加がありました。東は仙台市・いわき市から、西は大牟田市まで、文字どおり全国集会にふさわしい盛況でした。

総会は「山名氏歴代尊儀ご回向法要」から始まり、兵庫県知事ほか地元関係の祝辞のあと、事業計画・役員改選等の議事にすすみ、続いて山名蔵見学・村岡山名氏御廟参拝と村岡での予定を終了し、宿舎の日和山海岸へバスで移動しました。

会場の金波楼は山陰海岸国立公園の雄壮な絶壁を展望する格好の地にあり、短時間ながら「山陰旅情」を味わっていただいたかと存じます。

第二日には山名氏の本拠出石の地を訪ね氏清公縁故の宗鏡寺参拝のあと、竹田城へ移動し、赤松氏との合同慰靈祭。これを「日本歴史に録してもよいほどの壮挙」とはどなたの弁でしたか？

最後に太田垣氏が開発に努力した生野銀山をながめ、上流の秘境大明寺で但馬山名氏三代時熙公の尊像を仰いで、一族会の発展を誓い、参加者一同再会を約して散会しました。

《特別寄稿》

この一文は、鳥取市中島憲仁氏の家に残る由緒書です。代々この一書を伝えることにより山名氏一流の矜持を後代に托したものとかがえます。各家にもそれぞれこうした伝承があると思いますので、ご寄稿くださいますようお願いいたします。

(編集子)

山名家由来之事

鳥取 中島 憲仁

其(ノ)後ニハ山名一家子孫打(チ)続キ守護トナル。其(ノ)起リハ足利尊氏卿後醍醐帝ノ御代ヲ傾ケ、伏見殿ノ皇統ヲ立(テ)、天下ノ元帥ニ備リ、四海ヲ掌ニ掬リ給ヒシカバ、其(ノ)余威ニ引(カ)レ、彼(ノ)一門親族、分ニ隨ヒ程ニ依(リ)テ頭官頭職ニ任ジ、一人シテ大國小國數郡ノ守護ヲカネ、數十ヶ所ノ庄苑ヲ領シ、コレヨリ足利ノ一家天下ニハビコリ、盛衰昔ニ引(キ)カヘ、彼(ノ)門葉氏族榮耀一時ニ目ヲ驚カセリ。中ニ山名ノ一家ハ、新田家ノ胤族トシテ、足利ノ家ニ於(イ)テハ、余ノ一族ヨリウトカリシカドモ、如何ナル故ヤ有(リ)ケン、新田ヘハ隨從セズ、尊氏創業ノ始(メ)ヨリ昵近奉仕ヲ致サレケル。此(ノ)時山名元祖ヲ伊豆守時氏ト云(ヒ)、弟ヲバ參河守ト云(ヒ)シガ、是ハ八幡合戦ノ時討死シ、唯時氏ノ子孫山名ノ一家ヲ相続セリ。時氏尊氏卿ニ從ヒテ所々ノ軍功ヲ勵(マ)シ、城ヲ落シ敵ヲ俘ニシ、心剛ニ謀イミジク度々ノ勇名陣々ノ勝利此人ニ非ズンバ將軍世ヲモ可(キ)助、人ナシト見ヘニケレバ、幕府ノ爪牙、武門ノ棟梁トモ謂(ヒ)ツベシ。去レバ尊氏卿モ他ニ異ニ思ワレ、掌祿モ人ニ越(エ)ヌレドモ一門他家ノ人々モ其(ノ)軍忠ヲ感ジ妬ム者更ニナシ。山陰道ニ於(イ)テ始(メ)テ領國ヲ賜リ伯耆、因幡ノ守護トナル。居城ハ伯州ナレドモ、戰國ノ比ナレバ出雲、但馬、美作迄、皆彼(ノ)下知ニ隨ハズト云フコトナシ。此(ノ)比ヨリ、當國始(メ)テ山名ノ家ノ國トナリ代々彼(ノ)家ヨリ領知ス。カ、リケル処ニ、文和ノ比ヲヒ、時氏ノ子息右衛門佐師氏、後ニ師義ト改ム、八幡合戦ニ軍忠有(リ)シカバ、恩賞ノ地ヲ望(シ)ケレドモ、義詮朝臣ノ執權ノ出頭人佐々木判官入道々譽是ヲ取ツガズ。無礼至極ナリシカバ、是ヲ憤リ、父子言(ヒ)合(シ)セ、是ヨリ將軍ヲ背キ、宮方ニナリ、因幡・伯耆・出雲・但馬・美作ヲ隨ヘ、兩度京都ヘ攻(メ)上リ、將軍父子ニ對シ軍ヲセシガ、初度ノ軍ニハ、因幡勢ヲ

催シ、大勢ヲ卒シ、山崎神南ニテ大合戦有(リ)シニ、因幡勢ニハ伊田・波多野・石原・足立・河村・久世・土屋・福依・野田・藤沢・浅沼・大庭・福岡・宇多河・海老名和泉守・吉岡安芸守・小幡出羽守・橋又太郎・加地三郎・後藤老岐四郎・佐久修理亮・長門山城守・土師右京亮・毛利因幡守・佐治但馬守・塩見・原多・多賀屋・藤山・竹中・首藤・福塚・佐野久作・敷美等其勢合(ヒ)テ五千余騎、ハヤリヲノ若武者ドモ、勇ミ進ンデ攻(メ)戦ヒシカバ、始(メ)ハ山名勝利ヲ得、既ニ義詮朝臣ヲ追(ヒ)落シツベク見ヘケルガ、後度ノ軍ニ山名勢打負(ケ)テ、師氏モ深手ヲ負(ケ)レケレバ、因幡勢宗徒ノ侍八十四人、其一族郎從二百六十三人、枕ヲ並ベ討死ス。師氏はヲ歎キ、討死シタル侍ノ名ヲ書(キ)記シ、因幡國常ノ道場ヘ送り、彼(ノ)追善ヲイトナマレケル。間(ク)人感セヌ者ハナカリケリ。其(ノ)比美作ハ赤松ノ國、出雲ハ佐々木ノ國ナレバ、山名ト殊更中患(ク)クシテ、兩方ノ國境度々ノ軍止ムコトナシ。其(ノ)後山名久シク宮方ニテ有(リ)シガ、又將軍方ヘ歸參セラレシカバ、昔ノ領國不(レ)相替フ、伯耆・因幡・但馬ノ守護トシテ、威勢ヲ近國ノ間ニ振ヘリ。大名高家モ其(ノ)上ニ立ツ者ナク、大樹ノモテナシモ疎カナラズ。其(ノ)比時氏ヲバ右京太夫トゾ云ヒケル。後ニハ四職ノ其一トシテ、三管領ニ列ヲナス。カクテ時氏卒去セラレ、子息餘有(リ)シカドモ、右衛門佐師氏ハ父ノ遺跡ヲツギ、伯耆國ニ在城ナリ。伯州ニテハ倉吉其(ノ)城下ナリシカトヤ。其弟修理大夫義數ハ紀伊國ノ守護トナリ。其弟陸奥守氏清ハ、丹波國ノ主トナル。其(ノ)弟中務太輔氏冬ハ因幡國ノ守護トナル。其(ノ)弟伊予守時義ハ、但馬國ノ守護トナル。比外左馬介氏重・上總介義治・修理亮高義等分々ニ官祿賤シテカラズ、嫡男師氏卒去セシカバ、其(ノ)長男讚岐守義幸跡ヲツギ、伯耆國ニ在城セシガ、病氣重(ク)シテ京都ノ勤仕、成(リ)難キニ依(テ)、舍弟ノ播磨守滿幸名代トシテ、是ヲ勉ム。カヘリケル処ニ、但馬ノ守護伊予守時義、其(ノ)身不調法多(ク)シテ、京都ヘモ參勤セズ、常ニ病氣ト稱シ、上ヲ輕ンズル振舞多カリケレバ、此(ノ)由將軍ヘ有(リ)儘ニ聞ヘ、急度國ヲ召上ラレ改易アルベキニ究リケル半ニ、病氣重リ卒去セシカバ、其(ノ)子宮内少輔時熙、右馬頭氏之ヲ追伐セラルベシトテ、陸奥守氏清滿幸ヲ討手ニ向ケラレシカバ、國ヲ退(キ)山野流牢ノ身トナル。其(ノ)國ヲバ頓(テ)氏清揮領セリ。氏清滿幸ヲ甥ナカラ蹕トシ、一家ノ内兩人威勢ヲ振ヘリ。其(ノ)後重テ國ヲ領知シテ氏清ハ和泉・丹波・但馬滿幸ハ丹後・伯耆・出雲・隱岐ヲ領知ス、然ル処ニ時熙・氏之科ヲ悔ミ、罪ヲ謝シ、連々嘆キ申(ケ)レバ、則(チ)免許セラレケリ。是ニ依(リ)氏清・滿幸憤リ、將軍ヲ恨ミ奉リ、忽(チ)謀叛ヲ企(テ)、世ヲ乱サントシケレドモ、其(ノ)事遂ニ遂(ケ)ズ、内野ノ合戦ニ敗軍シ、氏清ハ討死セシカバ、一族郎等皆討タレ、軍ハ其儘止(ニ)ケリ。滿幸ハ出雲・伯耆ニ下リ、籠城セントセシカドモ、ソレモ終ニ不(レ)叶、因幡國ニ越(エ)、青屋ノ庄ニテ遁世シ、行方不(レ)知(レ)成リニケリ。其(ノ)後年ヲ経テ尋(ネ)出サレ、終ニ誅戮ニ逢(ヒ)ケルトカヤ。其(ノ)領知ノ闕國但馬ヲバ宮内少輔時熙ニ賜(リ)、伯耆國ヲバ弟ノ右馬頭氏之ニ賜ヒシヨリ、兩國此ノ兩人ノ子孫続キテ、近キ比迄主護トナレリ。

山名氏発祥の地に

鑄銅神馬像奉納

群馬高崎市山名八幡宮社前に堂々！

今年春以来、山名八幡宮宮司、高井金二氏のご提唱による神馬像が、午歳の新年を前にした十二月六日に見事落成し同社境内に雄姿を現わした。奉納には当会山名章・山名弘宰両副総裁が卒先して幹旋の衝に当たられ、数多くの会員各氏が同調奉賛された。

同社は鎌倉初期に山名氏の太祖義範公が居館山城の麓に勧請された由緒で知られる。



後列左より 事務長、高井宮司、山名一良、山名総裁
前列左より 山田利春、山名弘宰、山名章、山名年浩の各氏

室町期に山名氏が関西に本拠を移してから長い間山名氏一族との密接な交渉があったが、近世にはいと次第に疎遠となった。

この神馬建立を機に一族各位がお参りにおこしくださいと宮司様はおっしゃっている。

なお同社の地元で、山名氏一統が健在で、本家の山名一良氏(当会会員)は氏子総代として奉仕に精魂こめていられると聞いた。



河内源氏ゆかりの

壺井八幡宮に一族会旗翻る！

昨年の会報3号にてお知らせした源家三代(頼信公・頼義公・義家公)の聖地、大阪羽曳野市壺井八幡宮に一族会旗奉納のニュースだが、本年正月より同社社頭に高々とかかげられ、清和源氏山名氏の健在ぶりを天下に宣揚している。

この挙は当会監事、三王紀将氏の全面的なご奉仕によるもの。

同社では今年「平成大復元修理」を計画され、大段的に奉賛運動を展開中とか、源氏の流れを汲む末裔各位の至純な協賛が望まれる。

會員・会友芳名録抄

24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	會員の部	
鳥取	鳥取	鳥取	鳥取	岡山	但馬	尼崎	豊中	大阪	池田	京都	京都	和歌山	大阪	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	静岡	東京	東京	小金井		
河上保春	中島憲仁	山名法道	山名弥生	山名源太郎	山名猛	山名文雄	島田孝信	三王紀将	山名光宗	山名真如	山名仁司	吉増欽太	太田垣富代	太田垣英幸	松原伸彦	太田垣永治	太田垣栄彦	太田垣照明	太田垣佐登	山名專司	及川敏子	山名章	山名晴彦		
49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	
茨城	和歌山	京都	広島	東村山	沼津	奈良	福生	茨城	泉大津	和歌山	静岡	和歌山	和歌山	西宮	東京	広島	大阪	中津川	但馬	但馬	指宿	大牟田	松江		
山名清	吉増利幸	山名隆司	山名作太	山名政信	山名啓策	山名逸郎	吉増一馬	山名正寛	山名秀昭	山名清弘	山名清	中島春三	宮田靖國	山名武男	山名重行	山名弘宰	山名守隆	宇野誠一	宇野誠一	山名正春	山名静馬	山名正雄	山名哲夫		
74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	
	奈良	鳥取	静岡	神戸	広島	京都	八代	広島	下関	京都	広島	茨城	大牟田	豊岡	田辺		神戸	東京	東京	西宮	倉吉	茨城	守山	井原	
	山名康夫	山名高好	山名義次	山名信益	山名正史	山名誠一	三王英寿	山名信吉	山名関登	山名繁	山名孝作	山名健文	山名志一	山名一郎	山名文雄		山名文義	山名和雄	山名常人	山名朝夫	坂口よし子	山名康友	山名柚実	山名紹伍	
99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	
いわき	姫路	姫路	宇治	倉吉	広島	千葉	淡路	神戸	明石	埼玉	米子	中津川	津山	倉吉	倉吉	鳥取	倉吉	鳥取	倉吉	姫路	福岡	東京	川西	姫路	
山名隆弘	山名義夫	山名武雄	山名秀明	駒井輝江	三王法子	山名正夫	山名桂輔	山名雅晴	山名修	疋田晴江	山名三夫	山名篤信	山名宗重	吉村年昭	山名衛	山名久松	山名俊雄	駒井正一	山名孝之	山名健一	山名利春	山名延昭	山名保		
					14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		105	104	103	102	101	100
					出石	鳥取	大阪	和歌山	羽曳野	京都	米子	高崎	豊岡	但馬	豊岡	但馬	但馬	鳥取	会友の部	姫路	京都	群馬	埼玉	姫路	摂津
					奥座信次	段塚美智子	火伏正文	補陀元伸	高木保生	西川玄房	長武均	西村久恵	町田照道	植垣和美	北条秀一	川浜一広	林一明		大沢賀寿夫	山名靖英	山名一良	小林政法	山名義之	山名年浩	
				計 一一六名		(平成一年十二月現在)																			

